

# 木材ニューズレター

(財)日本木材総合情報センター  
TEL03-3816-5595 FAX03-3816-5062

## 木材製品の荷動き・価格先行き動向調査(21年1月分)

1. 調査実施期間 平成20年 12月20日 ~21年1月10日

### 2. 調査実施方法

東京、大阪、名古屋の流通企業(問屋、仲買・小売商)に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。

1月分の回答企業数は42社、回収率は87.5%である。

### 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight. D. I. (ウェイト・ディフュージョン・インデックス) = { (「増加」の評価を行った回答の割合) × 2 + (「やや増加」の評価を行った回答の割合) - (「減少」の評価を行った回答の割合) × 2 - (「やや減少」の評価を行った回答の割合) } ÷ 2

したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

### 4. 調査結果の概要

#### (1) 荷動き動向

表-1 荷動き Weight. D. I.

		21/1月	2月	3月
仕入動向	国産材	△ 33.3	△ 24.2	△ 12.5
	外材	△ 39.7	△ 32.1	△ 19.7
販売動向	国産材	△ 40.9	△ 27.3	△ 18.8
	外材	△ 40.8	△ 22.4	△ 14.9
在庫動向	国産材	△ 23.4	△ 21.9	△ 11.3
	外材	△ 28.2	△ 24.4	△ 13.2

仕入は国産材、外材とも大きなマイナスで全く弱く、先行き少し上向くが厳しき継続。販売も国産材、外材とも大きなマイナスで全く弱く多少上向くものの当面需要回復みられない。在庫も同様国産材、外材とも大きめのマイナスほぼ横ばいで、先行きマイナスを多少縮める。

仕入、販売、在庫とも先行き3ヶ月の動向が全てマイナスと特段の弱さが見込まれる状況。

#### (2) 価格動向

表-2 価格 Weight. D. I.

品目	21/1月	2月	3月
スギ正角(グリーン)	△ 4.2	△ 4.2	0.0
スギ正角(KD)	△ 2.0	△ 4.0	0.0
ヒノキ正角	△ 2.0	△ 4.0	0.0
ヒノキ土台角	△ 4.2	△ 4.2	0.0
米ツガ正角(現地挽)	△ 14.6	△ 14.6	△ 12.5
米ツガ防腐土台角	△ 8.3	△ 8.3	△ 4.3
米ツガ割物(現地挽)	△ 12.5	△ 12.5	△ 8.7
米マツ平角	△ 18.8	△ 12.5	△ 4.3
北洋アカマツタルキ(現地挽)	△ 8.3	△ 14.6	△ 8.7
ホワイトウッド集成管柱	△ 32.0	△ 24.0	△ 12.5
レッドウッド集成平角	△ 23.8	△ 23.8	△ 14.3
型枠合板(国産)	△ 44.1	△ 23.5	△ 8.8
型枠合板(輸入)	△ 50.0	△ 29.5	△ 9.5
針葉樹合板	△ 47.6	△ 23.8	△ 7.5

スギ正角(グリーン、KD)小さなマイナス、ゼロで新年も動かず低調。同様にヒノキ正角、土台も小さなマイナス、ゼロと低調気味。米ツガは各品目ともマイナス基調で弱含み横ばい。米マツ平角も同様に弱含み。

北洋アカマツタルキはマイナス基調と一時の勢いがない。WW集成管柱、RW集成平角とも大きなマイナス幅で大きく縮めるが先高感なく弱い。合板(針葉樹を含む)は一段の大きなマイナス幅を一気に縮めるがマイナスで勢い出ない。

全品目でマイナス幅、ゼロと当面は市況回復の期待薄く、一層の厳しき継続の様相。

1. 荷動き	コメント
仕入 動向	米マツ一般材丸太では、米国材輸出価が12月積みは据え置かれたものの、1月積みは値上げの模様。カナダ材も米国材に引っ張られる形で強含みに。(東京:米材問屋)
	天候および集荷難で着船が遅れれば売れるのに売る物なし。(東京:米材問屋)
	先安観が強く買い控え。(東京:米材問屋)
	とにかく動きは悪い。(東京:米材問屋)
	需給バランスはとれている。(東京:南洋材問屋)
	春節(旧正月)を前にして生産は一時停止。2009年の伐採枠が減らされたことから、樹種により今後の供給量が減少する物もある。(東京:南洋材問屋)
	南洋材は雨期に入り入荷は減少。中国材は旧正月明けの入荷。(東京:南洋・中国材問屋)
	先行き不透明感強く慎重にならざるを得ない。(東京:国産材問屋)
	現在の市況では積極的な仕入れは出来ない。(東京:国産材問屋)
	スギグリーン材が不足気味。ヒノキ3m6cm角が少ない。(東京:国産材問屋)
今年の動きは先行き不安定。過去の動きとは違うので、一層在庫を減少し、身軽になって対処したい。(東京:仲買小売)	
販売 動向	米マツ丸太京浜マーケットでは、円高を受けてメーカーからの値下げ圧力は強いものの、問屋の手持ち在庫も多いことから大幅値下げには抵抗感が強い。(東京:米材問屋)
	少量の引き合い増で成約もある。意外に悪くないかも。(東京:米材問屋)
	構造材は全く動き悪い。(東京:米材問屋)
	米材価格は下げ。(東京:米材問屋)
	休み明けから細かい注文はあるが単価は依然として厳しい。新規手当材は円高為替で若干の余裕はあるが、昨年からの在庫品のコストは吸収出来ていない。(東京:南洋材問屋)
	問屋の販売は好調だが、その先は止まっている状況。(東京:南洋材問屋)
	まとまった注文が少ない。(東京:南洋・中国材問屋)
	手きざみの仕事がある。(東京:国産材問屋)
	信用不安等で営業も中々難しい。(東京:国産材問屋)
	状況悪化。手が出せない。(東京:国産材問屋)
荷動き非常に悪い。プレカット稼働率も4~5割減。先行きの見通しが非常に出来にくい。(東海:米加・北欧材問屋)	
1月6日新春初市、荷動き悪い。(東海:国産材問屋)	
3月まではなんとか仕事がありそう。今やっている仕事は昨年8月の見積りだが、ベニヤ類の下落で納品の価格面で助かっている。(東京:仲買小売)	
年末年始休みで実働日数が約半分。経済状況もあり売上大幅減。来月は平常ペースに戻ると思う。(東京:仲買小売)	
今月は予想通り厳しいスタート。まとまった仕事の話が無いので桜の季節まで辛抱か。(東京:仲買小売)	
当面、販売動向が先細りする傾向にある。(東海:仲買小売)	
在庫 動向	米マツ丸太は12月、1月と京浜港への本船入荷が続くため、問屋の手持ち在庫は増えている。(東京:米材問屋)
	全く在庫がなくなり入荷待ち。(東京:米材問屋)
	先安観が強く極力在庫を少なくしているようだ。(東京:米材問屋)
産地の減産と国内の販売不振から在庫は減少のまま。(東京:南洋材問屋)	

2. 価格動向	
スギ正角	荷動きが感じられない中、相場の上下は二の次。(東京:問屋) 上がらなかった分下がらない。(東京:問屋)
ヒノキ正角	KD材の動きが良くなった。(東京:問屋)
土台角	
米ツガ	
米マツ平角	需要不振で価格は下げ一色。(東京:問屋) 大手メーカーは12月、1月と2度値下げしている。先々全く不透明。(東海:問屋)
北洋アカマツタルキ	相変わらず手当てしづらい。(東京:問屋) 下落傾向で先々まだ下落しそう。ただ価格が下がっても需要が少なくなっている。先々全く不透明。(東海:問屋) 関税問題は1年先送りの模様。将来も価格に関係なくアカマツタルキを使い続けるか、スギに代替するか、この1年で結論を出さねば。(東京:仲買小売) 需要面から見て一時期より弱保合いの感じ。(東京:仲買小売)
WW・RW集成材	集成平角は価格下落に歯止めがかからない状況。(東京:問屋) 需要不振で値下げしているがそれでも売れない。(東京:問屋) 円高、需要減少でEWは弱保合い。(東京:問屋)
合板	生産の中止や調整にも拘らず、相変わらず売行き不振で在庫増加傾向にあるため、価格下落の兆候が強い。(東京:仲買小売) 需要減少への対応策が供給サイドで漸く採られ始めたようで、価格も当面の底値が確定するのでは。2-3ヵ月後は環境次第。(東京:仲買小売) 需要減退、先行き不透明のため、在庫を抑えて当用買い。巷の景気は非常に悪い。(東海:仲買小売)